



# 四 気 折 々

川越町立川越中学校  
「学校だより」第37号  
令和5年12月20日  
「認め合う・支え合う環境  
づくり」人権学習の成果

昨日の「学校だより第36号」に川越中学校生徒の名前（ふりがな）の記載にかかわり、大きな間違いがありました。正しくは次のようになります。大切な生徒の名前（ふりがな）を正しく標記できなかったことに対しまして、お詫びと訂正をさせていただきます。本当に申し訳ございませんでした。

【三重県PTA 連合会主催 『楽しい子育て全国キャンペーン』 三行誌コンクール】受賞生徒紹介より  
2年1組 「杉野 蒼真 (すぎの そうま) さん」の三行誌が三重県「入賞」！  
『 父さん、試合の応援ありがとう。いそがしい中 ありがとう。  
「こなくていい」といっているけど本当はうれしいよ。』

2学期のいっぱいの成果から！2つの講演会を『出会い学習』として。

- ① 増田 喜昭さんの講演会。本の世界に体育館の全員が引き込まれた時間。  
「読むことは創ること ～ 今すぐにでも本を手にしたくなる話 ～ 」
- ② 山口 颯一さんの講演会から考える。【いのちの大切さを考える講演会より】  
「多様な性のあり方 ～ 山口 颯一さんから深く学ぶ ～ 」

川越中学校の学校づくりビジョンの中に、今年度から「心とからだの健康」を学校教育の重点となる5つの柱に取り入れました。それが、「いのちの大切さを考える講演会」であり、様々な『出会い学習の場』としての講演会の実施です。

わかる・できた と思える授業	生徒に寄り添う 生徒理解の充実	認め合う・支え 合う環境づくり	子どもたちが主体 となる自治活動	心とからだ の健康
-------------------	--------------------	--------------------	---------------------	--------------

『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みをすすめます。

川越中学校では令和5年度の「学校教育ビジョン」においても、『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みの中で、大切にしている1つの項目に「心とからだの健康」があり、次の5つの具現化した「ねらい」があります。

『心とからだの健康』……具現化した「ねらい」

- ◆ いのちの大切さを考える講演会(学期に1回開催)
- ◆ 心とからだに関わる教育相談 ◆ 読書活動の推進(講演会を含む)
- ◆ 地域とともにある食育教育推進 ◆ 部活動校外活動を通じたからだづくりと心づくり

『読むことは創ること』～今すぐにでも、本を手にしたくなる話～  
子どもの本専門店「メリーゴーランド店主 増田 喜昭さんの講演会を開催しました！子どもたちがどんどん増田さんのお話の中に、引き込まれていくのがわかります。本の世界に川越中学校のみんなが入り込んだ宝物のような時間になりました！増田さんありがとうございました！【川中 HP の内容抜粋もあり】



新たな本との出会い。初めての増田さんとの出会い。そして、増田さんのお話から、川越中学校の子どもたちと先生方みんなが「本の世界に入り込む」、「自分が好きな本をもう一度読んでみたくなる」、「本の物語に自分がいる」そんな時間を共有し、今すぐに出も本を手にしたくなる話を聴かせていただきました！子どもたちは、初めて出会う増田さんと、そして、はじめて出会う本との出会いをいっぱい体験することができました。子どもたちが、どんどん話の中に前のめりになっていく雰囲気がよくわかりました。



12月8日（金）の6限目は全校の「総合」の時間として、『読書活動推進にかかわる講演会』を開催しました。講師は、四日市市松本にある「子どもの本専門店 メリーゴーランド店主の増田 喜昭さん」です。全校生徒が対象ですが、三重郡PTA「子どもの未来を語る会」の取り組みともタイアップして開催をし、平日ではありますが保護者の皆さまにもお越しいただきました。子どもたちにどうしても出会う欲しい人、子どもたちにどうしても話を聴いてほしい人、本の大好きな川越中学校の子どもたちに対してどうしてもお話をしてほしい人。増田 喜昭さん。



川越中学校では、今年度から「学校づくりビジョン（学校教育目標）」の具体的な活動方針の中の『心とからだの健康』のところに「読書活動の推進」と「子どもたちの心に響く・迫る講演会（いのちの大切さを考える講演会）」を大切な取り組みとして位置付けています。川越中学校の図書室は毎日、本の大好きな子どもたちでにぎわっています。本を読みたい人、本を借りたい人、本を返す人、図書室の雰囲気が好きで来る人、新しい本を探しにくる人・・・そんな子どもたちでいっぱいです。また、川越中学校で大切にしているのは、放課後の図書室利用を認めていること。放課後の本の貸し出しを認めていること。多くの中学校で放課後の図書室利用は部活動等もあるため、開館させない学校が多くある中、川越中学校は放課後の図書室利用を大切にしています。これからも必ず放課後利用は継続し



ます。1分でも10分でも子どもたちが日々本に触れ合う時間をつくりたいという思いからです。専門委員会の図書委員会のみなさんが役割分担をして、月～金までの毎日のお昼休みと放課後を開館してくれています。

講演会が終わって、増田さんのお話の余韻がさめないまま、帰り学活を終えた本の大好きな子どもたちは、すぐに図書室に集ってくれました。子どもたちが『今すぐにも、本を手にしたくなる』ように、放課後の貸し出しから、増田さんに紹介していただいた本を用意していただきました。一番人気は『はてしない物語』を3年生の男子生徒と1年生の女子生徒が嬉しそうに借りていきました。また、映画「千と千尋の神隠し」のモデルとも言われる「霧のむこうのふしぎな町」もすぐに貸し出しされました。放課後のたった20分の貸し出し時間は、新たな本と出合いたい子どもたちでいっぱいでした。そして、図書館司書の館さんと子どもたちが本の内容でお話をしている時間は、増田さんのお話の本の世界がそのまま続いているあたたかな時間となっていました。中には、明日おうち人とメリーゴーランドに行ってきます！と嬉しそうに話をしてくれた子どもたちもいました。一番嬉しかったのは、登校に不安がある生徒が、ずっと増田さんのお話を聴くことを楽しみにしてくれていて、講演会当日に登校できたこと。体育館でお話を聴くことができたこと。本当に嬉しかったです。

## 【子どもたちの感想からほんの一部抜粋】

■講演会すごく楽しかったし面白かったです。「はてしない物語」と「フクロウくん」という本が気に入りました。読んでみたいです。

■今日、店長さんのお話をききました。めっちゃ読みたくなりました。「はてしない物語」をよみたいです。

■本のことについて、自分の世界観を持ちながらのお話をしてくださいました。みんなに伝わるように、好きなことすきな本を本気で話してくれているのを見て、自分も何か「これ！」と言えるような好きなことだったり、本気で向き合えることを見つけたいなと思いました。

■講演会すごくおもしろくて、メリーゴーランドに行きたいと思う45分でした。僕も大人になった時、こういう人になりたいと思いました。

### 【講演会に参加をいただきました保護者の方からの感想です】

子どもが小さい頃何度か行った懐かしのメリーゴーランドの店主さんの講演なので楽しみにしていました。名作ファンタジー小説のお話はとてもおもしろかったです。全部名前を知っている有名な本で、半分位は読んだことがありました。自分もファンタジー小説が大好きな子どもだったことを思い出しました。映画と原作の違いなども「そうそう！ そうなの！」と思いながら聞いていました。

もっと2～3時間位講演があつたらよかったですと思いました。とても有意義なお話を聞いて、子どもたちはラッキーだと思います。これを機に、本に興味を持つ子どもたちが増えるといいなと思います。私のおすすめの本は「空色勾玉(そらいろまがたま)」萩原規子さんです。

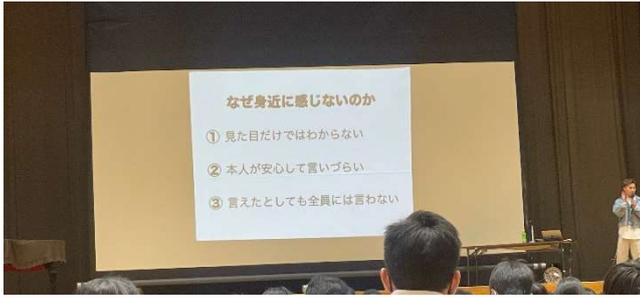
『多様な性のあり方～山口 颯一さんから深く学ぶ～』【命の大切さを考える講演会②】 この講演会は出会い学習であり、その人との大切な出会いを通じて、その人の生き方に触れ、自分事として考え、学び、知ってほしい】貴重な時間となりました。これは川越中学校が大切にしている人権学習そのものです。



2学期の三者懇談会最終日12月13日(水)の1・2限目は「いのちの大切さを考える講演会②」として、昨年度に続き、一般社団法人 ELLY 代表の山口 颯一さんを講師としてお招きし、「多様な性のあり方 ～山口 颯一さんに深く学ぶ～」という演題のもと、『自分らしさ』、『人を理解する』ということをご自身の経験を通じて講演をしていただきました。

川越中学校が大切にしている「いのちの大切さを考える講演会」は『出会い学習』であり、いろいろな人の考え方生き方に触れる『生き方学習』であり、『人権学習』でもあります。

川越中学校が大切にしている「いのちの大切さを考える講演会」は『出会い学習』であり、いろいろな人の考え方生き方に触れる『生き方学習』であり、『人権学習』でもあります。



講師の先生の『生き方に触れてみる』。そして周囲の人や仲間のこと、自分のことをしっかりと考えるきっかけにする。出会いを通じた講演会から「いのちの大切さ」や「自分らしく生きること」を考え、気づき、そして自分事として受け止め、学んでほしい。そんなねらいのもと講演を実施しました。LGBTQ 性の多様性について学びながらも、山口さんの経験

からくるご自身を語る言葉一つ一つには重みがあり、その山口さんの生き方に触れながら、自分事として考えることができる貴重な1時間となりました。

子どもたちの素直な振り返り、自分事として多くの子どもたちが受け止めていた振り返りの内容。その子どもたちの言葉を「学級通信」、「学年通信」としてつないでいただいた担任や学年の先生方。先生方の生の声からも、今回の講演会が、子どもたちの「確かに生きる学びの場」となったこと。山口颯一さんとの出会いが「子どもたちの心の中にしっかりと残ったこと」。そして、「自分と重ねて考えることができたこと」がよくわかりました。貴重なそしてこれからの川越中学校につながる時間をつくっていただいた山口颯一さんに感謝とお礼を申し上げます。そして、講演会をしっかりと聴き、しっかりと振り返りをしてくれた全校生徒のみなさんにも感謝します。ありがとうございました。

【 子どもたちの感想のほんの一部を抜粋して 】

■ 見た目では判断できない。それは、分かっているもやっぱり見た目だけで判断してしまうことが多くありました。でもよく考えてみると、性別ってそんなに重要じゃないなって思いました。その人はその人だから。今の社会で大切なことは、自分が少しみんなと違うと感じる人がいたときに、その人がその違いを感じていることを、みんな安心して伝えることができることが大切です。みんなが好みも、性別も、考えることもみんな違って当たり前だし、だから面白いし楽しいんだと思います。自分の普通を押し付けずに、みんなが好きなことをして暮らせる、自分の想いを素直に話せる、そんな社会がよいと思います。

■ 今日は講演会がありました。今日の学年通信に書いてあったように「相互理解」というのは講演会にも出てきたLGBTQを理解して当たり前にするにつながついていると思います。性別に関することは、時には人を傷つけてしまうので発言には気をつけて、LGBTQが当たり前になるようにしていきたいです。

■ 自分のことを基準にするのではなく、たくさんの考え方があるというのをしっかり思って、全員が過ごしやすい環境を創っていくのが良いと思います。

「自分事」として考えられる気持ち。そして「受け入れること」、「関わること」の大切さを考えられること。山口颯一さんの講演会は昨年度に続き「出会い学習」そして、「人権学習」です。どうしても出会ってほしい人。その出会いからみなさんは「自分らしさ」、「人を理解する」ということについて考え、学びました。これから生きるみなさんが講演会を通じて考えた時間は大変貴重なものとなりました。